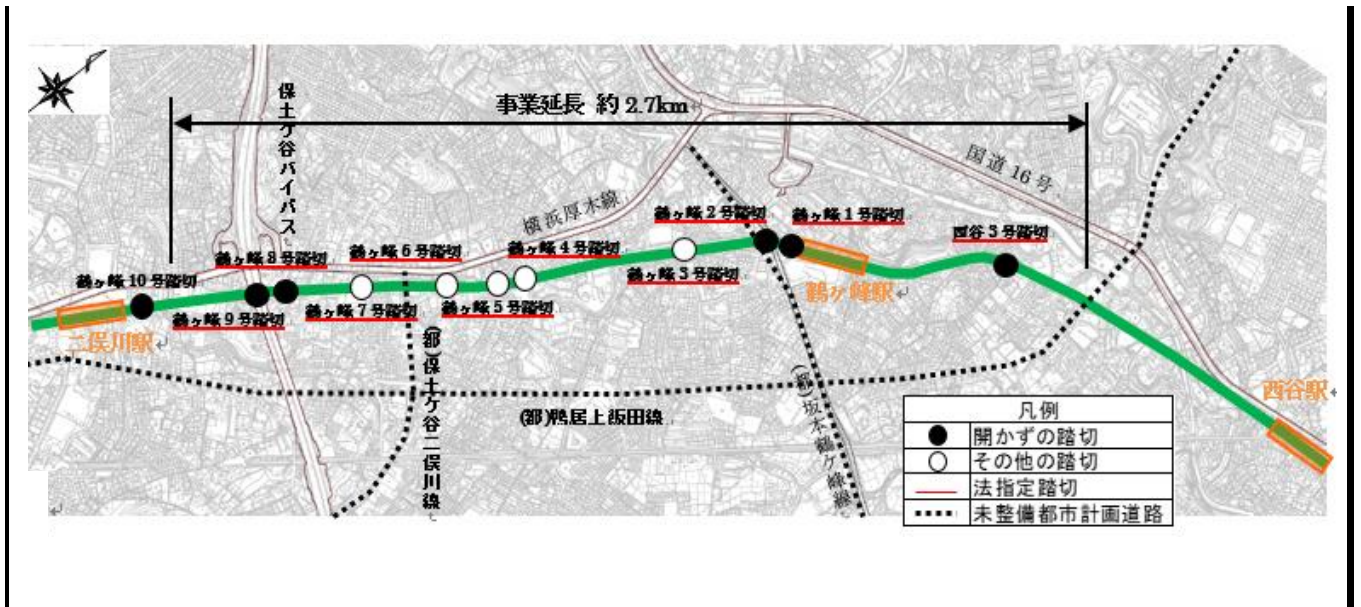


再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課
担当課長名：本田 武志

事業名	相模鉄道本線(鶴ヶ峰駅付近)	事業区分	連続立体交差	事業主体	横浜市																												
起終点	自：横浜市旭区西川島町 至：横浜市旭区二俣川2丁目			延長	2.7km																												
事業概要																																	
<p>本事業は、相模鉄道本線の鶴ヶ峰駅付近において鉄道を連続的に地下化することにより、10箇所の踏切（うち開かずの踏切5箇所、踏切道改良促進法に基づく法指定踏切10箇所）を除却し、踏切事故の解消、地域交通の円滑化、地域防災力の向上、地域の一体化及び周辺のまちづくりの発展等により生活環境の向上が図られる事業である。</p>																																	
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">全体事業費</td> <td style="width: 25%;">約 770 億円</td> <td style="width: 25%;">事業進捗率</td> <td style="width: 10%;">— %</td> <td style="width: 10%;">供用済延長</td> <td style="width: 5%;">— km</td> </tr> <tr> <td>計画交通量</td> <td colspan="5">131,448 台時/日（踏切交通遮断量）</td> </tr> </table>						全体事業費	約 770 億円	事業進捗率	— %	供用済延長	— km	計画交通量	131,448 台時/日（踏切交通遮断量）																				
全体事業費	約 770 億円	事業進捗率	— %	供用済延長	— km																												
計画交通量	131,448 台時/日（踏切交通遮断量）																																
費用対効果分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">B/C</td> <td style="width: 10%;">(事業全体)</td> <td style="width: 10%;">1.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(残事業)</td> <td>1.3</td> </tr> </table>	B/C	(事業全体)	1.3		(残事業)	1.3	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">総費用</td> <td style="width: 10%;">(残事業)/(事業全体)</td> <td style="width: 10%;">513/513 億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事業費：</td> <td>512/ 512 億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>維持管理費：</td> <td>0.90/0.90 億円</td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/(事業全体)	513/513 億円		事業費：	512/ 512 億円		維持管理費：	0.90/0.90 億円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">総便益</td> <td style="width: 10%;">(残事業)/(事業全体)</td> <td style="width: 10%;">646 / 646 億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>走行時間短縮便益：</td> <td>592 /592 億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>走行経費減少便益：</td> <td>32/ 32 億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>交通事故減少便益：</td> <td>22/ 22 億円</td> </tr> </table>	総便益	(残事業)/(事業全体)	646 / 646 億円		走行時間短縮便益：	592 /592 億円		走行経費減少便益：	32/ 32 億円		交通事故減少便益：	22/ 22 億円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">基準年</td> <td style="width: 10%;">平成 29 年</td> </tr> </table>	基準年	平成 29 年
B/C	(事業全体)	1.3																															
	(残事業)	1.3																															
総費用	(残事業)/(事業全体)	513/513 億円																															
	事業費：	512/ 512 億円																															
	維持管理費：	0.90/0.90 億円																															
総便益	(残事業)/(事業全体)	646 / 646 億円																															
	走行時間短縮便益：	592 /592 億円																															
	走行経費減少便益：	32/ 32 億円																															
	交通事故減少便益：	22/ 22 億円																															
基準年	平成 29 年																																
感度分析の結果																																	
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">(事業全体) 交通量：B/C=1.1～1.4（交通量 ±10%）</td> <td style="width: 50%;">(残事業) 交通量：B/C= 1.1～1.4（交通量 ±10%）</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C=1.1～1.4（事業費 ±10%）</td> <td>事業費：B/C= 1.1～1.4（事業費 ±10%）</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C=1.2～1.3（事業期間±10%）</td> <td>事業期間：B/C= 1.2～1.3（事業期間±10%）</td> </tr> </table>						(事業全体) 交通量：B/C=1.1～1.4（交通量 ±10%）	(残事業) 交通量：B/C= 1.1～1.4（交通量 ±10%）	事業費：B/C=1.1～1.4（事業費 ±10%）	事業費：B/C= 1.1～1.4（事業費 ±10%）	事業期間：B/C=1.2～1.3（事業期間±10%）	事業期間：B/C= 1.2～1.3（事業期間±10%）																						
(事業全体) 交通量：B/C=1.1～1.4（交通量 ±10%）	(残事業) 交通量：B/C= 1.1～1.4（交通量 ±10%）																																
事業費：B/C=1.1～1.4（事業費 ±10%）	事業費：B/C= 1.1～1.4（事業費 ±10%）																																
事業期間：B/C=1.2～1.3（事業期間±10%）	事業期間：B/C= 1.2～1.3（事業期間±10%）																																
事業の効果等																																	
<p>①踏切交通の安全性向上 踏切（10箇所）を除却することにより渋滞や踏切事故が解消される</p> <p>②地域社会への貢献 鉄道により分断された地域の南北一体化及び駅周辺の都市基盤の整備により地域の活性化が期待される。</p> <p>③地域防災力の向上 踏切除却により迅速な緊急活動が可能となり地域住民の安全・安心が確保される</p>																																	
関係する地方公共団体等の意見																																	
<p>・旭区連合自治会町内会連絡協議会及び鶴ヶ峰駅周辺のまちづくり検討を進める鶴ヶ峰駅北口地区再開発協議会から早期事業化の要望書が出されるなど、地元の踏切解消に寄せる期待が大きい。</p>																																	
事業評価監視委員会の意見																																	
—																																	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等																																	
<p>・平成30年度 相模鉄道本線「星川駅～天王町駅間」で全線高架化</p>																																	
事業の進捗状況、残事業の内容等																																	
<p>・事業の進捗状況：比較設計、環境影響評価手続き</p> <p>・残事業内容：詳細設計、都市計画及び環境影響評価手続き、用地買収、工事</p>																																	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等																																	
—																																	
施設の構造や工法の変更等																																	
—																																	
対応方針	事業継続																																
対応方針決定の理由	<p>・事業の必要性・重要性に変更はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。</p>																																
事業概要図																																	



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。